

活動報告

団 体 名	いぶり自然学校
活 動 名	地域コミュニティのためのジオパーク・エコツーリズム地滑り山林整備活動
活動期間	2019/04/08～2019/09/30
活動の成果	地滑りを起こした山肌の事前調査、計画作成、測量、植林、土留めの造成作業、などを行いました。地滑りした山林を整備することで、被災した子どもだけではなく、特に保護者や地域住民の眼前に広がる、目を背けたいくなるような地滑り山林に能動的に関わる意欲（モチベーション）や行動（アクション）を引き出し、今まで以上に自身の環境に愛着を持つ地域住民の集団（コミュニティ）の創出に寄与した。また地域外からのボランティアの受け入れを通して、自分の地域を語る場と機会を創出することにより、地域住民から「不幸なことは起きたが、頑張っている」という自尊心を内発的に引き出し、さらに自身の地域を持続的に向上させていく仕組みづくりを促した。荒廃した山林を「主体的に関わることができる宝の森」という認識を持つことで、他の地域にある荒廃した山林・遊休地の再生や利活用へとノウハウを移転させ、「地域の自然は地域で守る」という理念と手法を定着させることができた。
寄付者へのメッセージ	大震災から 1 年が経ち、目を背けたいくなるような地滑り山林は眼前に広がっているが、子どもや地域の人々がボランティアと一緒に自分の手で整備する活動を創出できたことは、これまで以上に地域住民の地震の環境に愛着を持つきっかけになったと強く信じています。整備活動は森の木々が生きている限り続いていきます。継続的な活動は、様々な人たちとの協力的なつながりは、今後の地域の持続的な発展に役立っていくでしょう。各地において、普段から主体的かつ継続的に関われる「森」自然環境が整備されるべきである、と強く思っています。そして、これらの活動を、単なる「森林整備活動」「自然保全活動の一環」など一面的な効果だけで評価するのではなく、コミュニティの再生、ツーリズムの促進のところにまで視野を広げ、多面的な機能や効果があることを認識するべきです。

（活動のようす）

